

仮設住宅に球根を

国内随一の球根産地にあり、毎年、本山にチューリップの球根を進納している富山県砺波市の真光寺（清水了純住職）が11月



23日、東日本大震災の被災地にも球根を届けてもらおうと、例年より多い20種3500球を門徒ら15人で本山に持参した。

被災地への贈呈分1500球を竹田空尊総務に手渡した清水住職は「江戸時代に多くの先人が富山から東北・福島に移住した歴史がある。ご縁ある地のために少しでもお役に立ちたかった。花が咲くのは4月から5月頃、美しい花で少しでも被災地の皆さんの心が和み、復興への活力につながれば」と話していた(写真)。球根は、東北教区災害ボランティアセンターを通じて、被災地の仮設住宅などに配られる。

同寺から毎年本山に届けられる球根は、同寺の門徒らによってプランターに植えられ、春には咲き誇ったチューリップが境内に飾られ、参拝者の目を楽しませている。